

## 感受性の原点を教えらるる

重複障がい者の通所施設「デイセンターまなびや」では創作活動の一環として2か月に1回希望者にフラワーアレンジメント教室を開いています。教えるのは小林有子さん。茎が持ちやすく挿しやすい花を選び、個性の表現ができるように考えた装飾を使って、季節のアレンジを楽しむ方法を提案しています。自分で花を挿すことができないときは、職員が寄り添って完成に導く過程が意思疎通の訓練になっています。「アレンジメントは無意識の自分らしさを確認できる作業」と話す小林さん。小さな反応を見落とさず、本人の意思が出てくるまで待つことで、思いがけないセンスに気づくことも。「まさかな生徒さんから感受性の原点を教えらるる」と大切にしてきた活動は10年目になりました。



### 小林有子さん

フラワーアレンジメント歴22年。OLを経て、結婚を機に本格的に好きだった花の世界へ。現在はサークル活動やグループなどの希望に応じ出張で教えている。

障がい者と自分はお花を通してきっと共鳴できるはずと、10年前、自ら「まなびや」の門を叩いた小林有子さん



小林さんは時間をかけて本人の意志に寄り添います。完成すると自己表現できた喜びで参加者の表情も晴々と見えます



水曜日、組紐の時間になると各自が丸台と呼ばれる組紐の道具を出して作業が始まります。

## 完成を喜ぶ純粋な姿に感動

知的障がい者の作業所「しごと場大好き」の自主製品のひとつに組紐製品があります。作業の指導にあたるのは組紐講師の深見圭子さん。1993年の開所に向け、メンバーが自分たちでできる独自の作業を模索していたところ中央公民館で開かれた組紐の展示会で深見さんに出会い活動が始まりました。メンバーのとり組み方はさまざまで、60センチの紐を組むのにじっくり数か月かける人、一日でできる人、複雑なものを組める人など、ペースや個性に合わせて逸品へ導きます。着物に由来する組紐を日常で使えるアクセサリやメガネ紐、帽子留めなどに仕上げ、販売。「出来上がりを純粋に喜ぶ姿が嬉しい」と深見さん。作業所とメンバーの成長を見守り続け21年目になりました。

### 組紐講師 深見圭子さん

夫の転勤で京都から東京へ。京都で親しんでいた着物に関わる「伊賀くみひも」を学び1985年に講師の認定を受ける。調布、府中で教室を開催。

「出会わなければ、知らない世界だった」とメンバーと同年代の子を持つ深見さん。自身の展示会でも作業所の製品を紹介するなど愛着も人一倍。



## 売れる商品に仕立てる楽しさ

寄附された布で手芸品を製作する「おもちゃ箱サークル」では、障がい児の放課後の居場所づくりと療育を行う「ふみ月の会」で子どもたちが藍染めした布を製品化するお手伝いをしています。「何になる？ どうしたら売れる？」と使い勝手や持ち手の長さなどを吟味してバッグや小物、衣類などに形を変えます。この日、裂いた浴衣で布草履を製作中の代表の嶋倉久子さん。一人暮らしになってこのサークルに出会いました。「人の役に立てることも嬉しいけど、ここで皆さんに会えるのが自分たちの支えでもあります」。作り手の喜びと配慮が伝わる「おもちゃ箱」の布製品。毎年12月に行われる福祉まつりのバザーではこれを目当てに来る人もいます。



### 「おもちゃ箱サークル」

1983年発足。活動は総合福祉センターのボランティア活動室で月2回。「あゆみ学園」の子どもたちに布でおもちゃを作って届けたのがサークル名の由来

現在平均年齢70代。「これどうなるの？」と既製品を研究し型紙を起こすことも、要望に応えたいという探究心が若さの秘訣



この日はバザーに出品する布草履、ぬいぐるみ、毛糸の靴下、メッシュワークのバッグなどを製作。完成品を見せ合うのも次のアイデアにつながる楽しみに

# やりがい

障がい者の能力を最大限に引き出すプログラムを提供したい。運営者の思いはあっても職員の数は限られています。そこで力になってくれるのがそれぞれの専門や得意なことを生かした市民のボランティアです。そこにはボランティア自身が思わぬ気づきややりがいを得て輝く姿があります。



## 子どもの成長を知る喜び

障がい児の放課後の居場所と療育の場を運営する「ふみ月の会」では「ふみ読み語りの会」に所属する7人のメンバーが交代で絵本や紙芝居の読み聞かせをする時間があります。小学生から高校生まで13人程度が集まり、イスを並べて静かに話が始まるのを待っています。「初めはとて難しいのではないかと思います。お気に入りの絵本をリクエストまでしてくれることもあるんですよ」と嬉しそうに話す今年度代表の高野美也子さん。さるかにのお話を聞いて「懲らしめられたさるがかわいそうだ」と言う子どもたちの感受性や、感想を尋ねると「つまんなかった」と言ってしまう素直な反応も楽しんでいます。



この日はメンバーの後藤チヨミさん、杉沢美智子さん、河畑美智子さんそれぞれが絵本と紙芝居を選んで朗読を披露。終わるとみんなが自然と寄ってきます

### ふみ読み語りの会

1998年発足。メンバーは60代～70代の女性7人。「テクニックではなく、心で読もう」が合い言葉。高齢者会食や保育園などにも出かけます。

「少し見ないうちに、すごい成長ぶりなのよ」と高野さん。我が子のようにスキップ